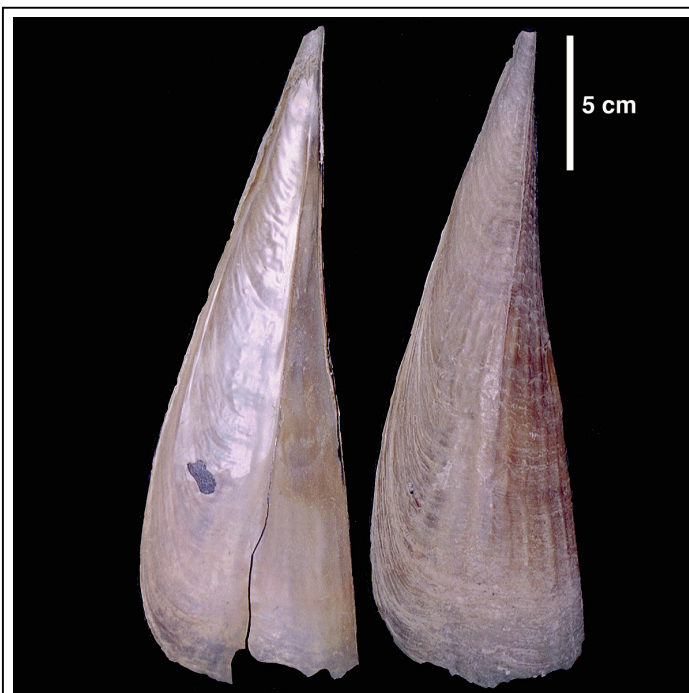


ハボウキ *Pinna attenuata* Reeve

【選定理由】

本種は、外洋に面した内湾の潮通しの良い潮間帯下部から潮下帯の砂泥底に突き刺さるように深く埋没し、後端だけを出してすむ。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種はかつて三河湾湾口部、伊勢湾知多半島周辺に生息していたようであるが(日間賀島漁協聞き取り調査；原田一夫氏私信)、近年内湾域では死殻さえ採集されていない。渥美半島太平洋岸では死後間もない死殻が少数ではあるが海浜に打ち上げられて採集されているので、渥美外海の浅海には生息海域が存在する可能性が高い。前回 (CR) よりランクダウンするべき種と評価された。



篠島沖, 1962年7月, 原田一夫採集

【形態】

殻長 30 cm を越える大型種。細長い三角形の殻で、茶褐色から黒褐色。殻はやや厚いが脆い。

【分布の概要】

【県内の分布】

近年、内湾域では生息が確認されていない。渥美外海の浅海には生息海域が存在する可能性がある。

【世界及び国内の分布】

日本、中国大陸、東南アジア、国内では房総・男鹿半島～九州まで分布する(山下・他, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも著しく減少していると考えられる。内湾域では大型種にもかかわらず死殻さえ採集されないの、危機的生息状況である。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

山下博由・久保弘文・木村昭一, 2012. ハボウキ, p. 115. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)